

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

【みつめ みがきあい みらいをひらく 南神の子】
 ~自分や友達、地域を大切に、主体的に学び、互いに高め合う 子どもを育成します~
 【知】知識や経験をもとに考えたことを伝え合い、主体的に学ぶ力を育てます
 【徳】自分も友達もみなかんのまちも大切にできる温かい心を育てます
 【体】望ましい生活習慣を身につけ、運動に親しみ、心身共にたくましく生きる力を育てます
 【公】すすんで社会とかかわり、社会の役に立ちたく行動する力を育てます
 【関】自分を見つめ、新しい価値観を受け入れながら、共に考え、よりよく生きていく力を育てます

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

主体的に未来を創る力

①9年間で育てる資質・能力を意識した授業づくりや評価を含めたカリキュラムづくりを行い、共有する。②自分も人も大切に、共に高めあう心を育むために、自己肯定感や自己有用感を意識した児童・生徒の交流を目指す。③各教科等を9年間で学ぶ意義や育成を目指す資質・能力を明確化することで、「松本中ブロック小中一貫カリキュラム」としてまとめることを目指す。

中期取組目標

○子ども一人ひとりを大切にしながら、自分らしさを発揮できる学びを充実させます。
 ・1年目は「わかる、できる」授業、主体的に取り組める授業づくりを推進します。
 ・2年目は自分の考えを進んで発信すると共に、仲間の意見を聞き、新たな考えをもてるようにします。
 ・3年目は、多様な考えを共有し、認め合い、深めることができるようにします。
 ○人との繋がりを大切に、豊かな体験を通して、みなかんのまちを大切に思える心を育てます。
 ・地域の人から学ぶ、地域の人に守られていることに感謝をしながら、学校生活が送れるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①必要感のある課題との出会いや必然性のある交流と共有の機会を意識した授業づくりにより、児童が課題を自分事として捉え、主体的に学習に取り組めるような授業づくりを行う。 ②多様な考えを共有し認め合うことのできる協働的な学びを実践する。
担当	学力向上プロジェクト

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
 どの学年も読む・書くといった問題を処理する力は定着を図ることができている。一方で、例えば2・3年生算数では、表を与えられた条件を関連付けて判別する情報を処理したり、分析したりする能力に課題があることが分かる。他学年も同様に、身に付けた力を活用して思考を広げたり、表現したりする力に課題がある。問題解決学習を基本に、対話を通して課題解決を図るよう授業を改善していく必要がある。
 生活意識・学習意識については学年のばらつきが大きく、学年によって子どもの特性が違ってくる。一人一人に寄り添ったきめ細やかな指導が必要である。特に3年生の意識が低く、学習をする意味や生活を豊かにする思いの高まりに課題がある。自己肯定感を高くもてるよう教育活動を工夫していく必要がある。

(2) これまでの学校の取り組み状況
 ・ホームステディを中心とした学習習慣の定着
 ・各学年で実体と併せて課題を設定することで、子どもに合った学習が家庭でも続けられる。
 ・重点研究会で互いの授業を見ることを通じて、子どもの実態を把握し、必要な資質・能力について理解を深める。

今年度の目標

基礎基本の定着を図り、言語活動を位置付けた自分の考えを表現する学習を充実させるとともに、自己肯定感をもつことができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
【1年】校内の人との関わりを通して、学校生活への関心を高め、自分の身近なことに積極的に関わろうとする態度を育てていく。 【2年】短い時間での発表活動を多く行うことで、学習内容や発表することへのイメージをつかめるようにする。 【3年】各教科の中で自分の考えをもてるように、見本を示したり、選択肢を与えたりする。 【4年】様々な文章を読んだり、書いたりする中で、語彙を豊かにし、自分の思いを表現する力を高める。 【5年】どの教科等の学習でも、計画的に振り返りの時間を設定し、これまでの成長や課題を捉えられるようにする。 【6年】自分と周りの人との関係を捉え、目的に応じて適切に表現し、伝えることができるようになる。 【個別】一人ひとりの興味関心や実態に応じた教材や学習課題を設定し、発達段階に応じたコミュニケーション手段を活用する場面を設け、主体的に学ぶ意欲を高める。	【1年】学校生活の様子を幼稚園・保育園の友達に伝えるために、交流会を計画することを通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができるようにする。 【2年】短時間の発表活動を通して培った力を、友達や教師、異学年や保護者へ自信をもって伝える活動を通して、発揮することができるようにしていく。 【3年】視点を定めて、ペアやグループで互いの意見を発表し合ったり、ノートを見せ合ったりして、それぞれの考えの良さを伝え合うようにする。 【4年】自分たちで課題を設定し、解決方法を考え、課題解決していくことで、問題解決力を高める。 【5年】見付けた課題から、新たな課題を設定し、伝え合うことで、自己・集団の考えを発展させる力を高める。 【6年】一人一人が自分の考えや調べたことについて伝え合う時間を設定することで、目的に応じて適切に表現することができるようにするとともに、知識・理解の定着を図る。 【個別】体験的な活動やグループ学習を多く取り入れることで、友達と関わりながら学習する楽しさを味わうことができるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①自己を見つめ、疑問を感じたり、共感したりしながら、みんなできよりよい生き方について語り合い、自分の生き方についての課題の答えを探していく学習を展開する。 ②道徳科の学習の充実を図り、全ての教育活動を通して、子どもの人格形成の基盤となる資質を育成する。 ③異学年交流や体験学習の充実を図り、豊かな心の育成や人権尊重の精神を育む。
担当	道徳科部

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 「豊かな心の育成」に関わる児童の実態
 ・地域、保護者、学校が一体となって取り組んできた挨拶運動により、自分から挨拶する児童が増えている。
 ・たてわり活動や人権週間の取組を通して、人を思いやる気持ちは育ってきた。今後も、一人ひとりが活躍する場を設け、一生懸命に取り組ませることににより、さらに、自己肯定感が高まるようにしていきたい。
 ・小規模校のため、異学年であっても互いをよく知っており、まとまりがある反面、仲間と競い合っている互いに高めあおうとする意識は低い。

今年度の目標

よりよい人間関係を築くために、道徳科の学習や日常の指導を大切に、子どもの自尊感情を養うとともに、自分や友達を大切にしようとする気持ちを育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
・全学年の道徳科の授業を家庭、地域（年1回以上）に公開する。 ・朝会の生活目標の話をつかぎに、日頃の挨拶について振り返り、自分から進んで挨拶をしようとする意識を高めるようにする。 ・たてわりの活動を通して、学級集団だけではなく異学年同士のつながりを築き、互いに助け合っていくことができるようにする。 ・道徳科授業力向上推進校の授業参観等で学んだことを、道徳科の学習が充実するように伝えていく。 ・宿泊体験学習で人や自然と豊かに関わる活動を通して、相手の気持ちや自然を大切にしようとする態度を育てるようにする。 ・音楽朝会で全学年が合唱や合奏を発表したり、鑑賞したり合う活動を通して、楽しく音楽に関わり、明るく潤いのある生活を送ろうとする態度を養うようにする。	・6年生の挨拶運動をきっかけとして、日頃の生活を振り返り、自分から進んで挨拶ができるようにする。 ・人権週間では、友達や自分のよいところを探するという活動を通して、人権意識を向上させ、自己肯定感を高めたり、互いの違いやよさを認め合ったりしていく。全学年で取り組み、取り組んだことを全校に伝え、共通理解できるようにしていく。 ・たてわり遠足などの活動を通して、下級生を思いやる心を育てたり、異学年の友達との仲が深めたりすることができるようにする。 ・たてわりお別れ集会を通して、下級生を思いやる心や上級生への感謝の気持ちを育てるようになる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①新体力テストの結果や普段の児童の実態から、体力向上1校1実践運動として、縄跳び運動を主に推進し、進んで運動しようとする態度を育成する。 ②家庭と連携を図りながら、食育や歯科、保健教育を進め、健康な体づくりに努める。
担当	体力向上

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 体育・健康に関する実態
 ・体育の学習では、与えられた課題や活動に対して素直に取り組むことができる児童が多い。一方で、休み時間や放課後は外で遊んでいる児童が多く見られるが、よく体を動かす児童とそうでない児童との二極化が見られる。
 給食の残量は5~6%と少なく、好き嫌いなく何でも食べようという意欲はある。給食後の「歯磨きタイム」を実施していて、歯磨きが習慣化されている。
 (2) 体力の概要と要因の分析
 体力運動能力の結果を見ると、学年によるが横浜市の平均前後である。特に上体起こしや握力が全体的に高く、反復横跳びや長座体前屈が低い傾向がある。
 ・生活実態調査については各学年でばらつきが大きく、学年によって運動・生活習慣が違ってくる。
 ・毎月1回体育集会を行い、体育学習の基礎・基本を伝える。(学校保健委員会の取り組み)
 朝食や睡眠時間などの家庭との連携しながら生活習慣の改善を図る必要がある。

今年度の目標

進んで運動しようとする態度を育成するとともに、家庭と連携を図り、基本的な生活習慣を身に付けることができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
教科 ・「わかった」「できた」を味わえる授業にするために、「どうしたらできるか」「どうしたらもっと楽しくなるか」を児童とともに考え、学習に取り組めるように工夫する。 ・指導案やワークシートなど、教職員の指導力向上につながる情報を発信していく。 特別活動・総合的な学習の時間 ・体育委員会を中心に、体を動かすイベントを設ける。遊びや運動を通して、体を動かす機会を増やす。 ・歯磨き・姿勢といった子どもたちの生活習慣の意識づけとなるクラス単位の課題設定。(学校保健委員会の取り組み) 課外活動 ・昼食後の歯磨き運動の習慣化。 ・毎月1回体育集会を行い、体育学習の基礎・基本を伝える。また、短縄、長縄といった体を動かす活動を朝会の中で行うことで、休み時間や放課後にも運動の意識を向けるようにする。	教科 ・保健の学習を通して、自己の体や健康に興味をもち、主体的に課題解決に取り組む学習活動を計画する。 ・家庭科では、食育との関連を図り、子どもたちや家庭の意識づけを図る。 特別活動・総合的な学習の時間 ・「本物」と触れ合い、自分の可能性を広げられる場を設定する。(横浜市体育協会による指導、神奈川大学の陸上競技部による「走り方教室」など) 課外活動 ・個人面談等を利用して体力テストの結果や保健情報等を家庭と共有するとともに、家庭や地域と連携した体力・生活習慣の向上に取り組む。